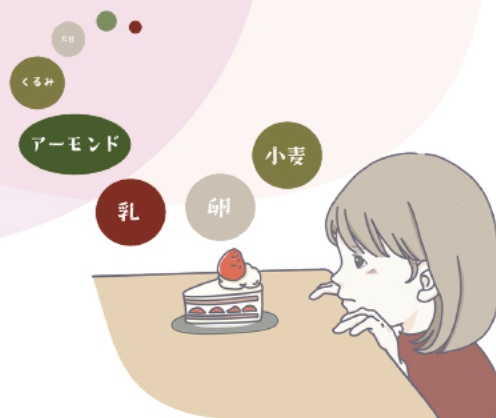


お子さんの 食物アレルギー について



① 食物アレルギーとは？

食物アレルギーは、ある特定の食べ物を食べたり、触ったりした後にアレルギー反応があらわれる疾患です。食物アレルギーの原因となる物質であるアレルゲンは、主に食べ物に含まれるタンパク質です。乳幼児の5～10%、学童期以降では1～3%が食物アレルギーと考えられています。原因食物を摂取してからアレルギー反応が出現するまでの時間によって分類されますが、今回は食べてすぐに症状が出現する即時型の食物アレルギーについてご説明します。

② どんな食物で症状がでる？

食物アレルギーの原因食物の頻度を右の表に表しています。離乳食を開始する年齢では鶏卵や牛乳、小麦が多いと言われています。また、近年木の実類のアレルギーが増えてきていると言われています。

▼ 新規発症の原因食物

n=2,764

	0歳 (1,356)	1,2歳 (676)	3～6歳 (369)	7～17歳 (246)	≥18歳 (117)
1	鶏肉 55.6%	鶏肉 34.5%	木の実類 32.5%	果物類 21.5%	甲殻類 17.1%
2	牛乳 27.3%	魚卵類 14.5%	魚卵類 14.9%	甲殻類 15.9%	小麦 16.2%
3	小麦 12.2%	木の実類 13.8%	落花生 12.7%	木の実類 14.6%	魚類 14.5%
4		牛乳 8.7%	果物類 9.8%	小麦 8.9%	果物類 12.8%
5		果物類 6.7%	鶏肉 6.0%	鶏肉 5.3%	大豆 9.4%

各年齢群ごとに5%以上を占めるものを上位5位表記
(今井幸成, 他, アレルギー, 2020; 69: 701-5より転載)

③ どんな症状がでる？

食物アレルギーと聞くとアナフィラキシーショックを思い浮かべる方もいらっしゃると思いますが、皮膚や呼吸器、消化器など体のさまざまな臓器にあらわれます。

- ・皮膚症状：かゆみ、じんましん、むくみ、発赤、湿疹など
- ・呼吸器症状：くしゃみ、鼻水、鼻づまり、咳、息苦しさ、ゼーゼー・ヒューヒュー（ぜん鳴）など
- ・粘膜症状：目の充血や腫れ、涙、かゆみなど、口の中や唇、舌の違和感、腫れなど
- ・消化器症状：下痢、吐き気・嘔吐、血便など
- ・神経症状：頭痛、元気がなくなる、意識もうろうになるなど

症状の重症度により飲み薬や吸入薬、注射製剤などが治療のために必要になります。

④ どんな検査をするの？

原因の食物を特定するには、実際に症状が出現した際に食べた食品の内容を確認します。そのうえで血液検査を行い、疑わしい食品の特異的IgE抗体というものを調べて食物に対するアレルギーの抗体があるかどうかを調べることができます。食物に対するアレルギーの抗体があることを感作といいます。また、血液検査の項目に疑わしい食物がない場合やアレルギーの抗体をまだ十分に作れていない月齢のお子さんの場合は皮膚に疑わしい食物をつけて皮膚の症状が出るか確認する「皮膚テスト」という検査をすることもできます。

ただ、感作があっても症状が出ないこともあるため、確定診断をするためには、病院で実際にその食品を食べてみて症状があらわれるかどうかを確認する「食物経口負荷試験」という検査が必要です。

食物経口負荷試験は、時には重篤な症状が出現することもあるため、病院で十分な準備を整えて、できるだけ安全に実施する必要がある検査です。

当院では血液検査、皮膚テスト、食物経口負荷試験を行っております。

⑤ 治っていくの？

子どもの頃の食物アレルギーは、多くが成長に伴い徐々に原因食物が食べられるようになります。食べられるようになる割合は、原因食物や発症年齢により異なります。詳細については主治医に確認してください。

